※令和４年度以降入学生用

学校番号	3016

令和５年度　工業科（産業創造系）

教科	工業	科目	ﾃｷｽﾀｲﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ実習	単位数	６単位	年次	２年次
使用教科書							
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

テキスタイルデザイン実習は、テキスタイル製品やデザインの基礎、ＩＣＴの基礎技術を総合的に理解し、実習以外の科目で学んだ創造性と組み合わせて新しい製品を提案できるようになることが目標です。実習の中では、２年生の実習では主に基礎となる実習を中心に行います。自分の考えたアイデアをどうすれば効果的に提案できるのかを考えながら実習に取り組むなど学習の効果を高めるよう工夫しましょう。

２　学習の到達目標

テキスタイルデザイン実習は、染色技術や，色彩・配色，ソーイング、グラフィックソフト等の基本的操作の知識・技術を身につけ、独創性のある工業作品および，プレゼンテーション資料として表現できることを目標とする．また，実習作業においては、自分の考えたアイデアを形にするため，他者と協働しながらより良い作品作りに対する姿勢を養い，ものづくりに対して主体的に活動できる人物を育成する．

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	テキスタイル製品やデザインに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における工業の意義や役割を理解している。 テキスタイル製品やデザインに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、環境に配慮し、ものづくりを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	テキスタイル製品やデザインの解決をめざして思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	テキスタイル製品やデザインに関する課題について関心をもち、その改善・向上をめざして主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
パート1	デザイン技法	デッサン、パースの基礎 インテリアエレメントの表現技法の習得 室内にどのようにインテリアエレメントを配置するかを計画し、製図する。 作品の評価と成果表現	a：インテリアパース・デッサンの基本技能や表現法を身に付け、正確な寸法感覚を身につける。 インテリアに関する総合的な知識を習得し、活用できる程度の理解が得られている。 b：インテリアエレメントにはどのようなものがあるのかを学び、それぞれの空間に合わせた配置計画を思考・判断し、自らインテリアエレメントを計画し、パースで表現出来る。 c：インテリアパースやデッサンの技法に関心を持ち、書き方の技術向上をめざして意欲的に取り組んでいる。	製作品 レポート	レポート・自己評価・相互評価等	学習状況の観察
パート2	インテリアエレメント	概要説明 コンセプトの設定、スケッチ 図面演習 文字盤のデザイン図面 形態の三面図 文字盤の制作Ⅰ 文字盤の制作Ⅱ ムーブメントの取り付け 本体の作成Ⅰ 本体の作成Ⅱ 文字盤と本体との接合 プレゼン	a：使用する機器や道具の使用目的と方法を理解し、必要に応じて適正に使用できる。 デザインに関する知識を身につけ、社会に発信していく目的とその手法について理解し、考えることができる。 b：今の工程が全体のどの段階か理解している。またコンセプトに合ったデザインを表現しようとしている。 c：図面をもとにそれを立体化させる工程に興味を持ち、意欲的に取り組んでいる。	製作品 レポート	レポート・自己評価・相互評価等	学習状況の観察
パート3・4	ソーイング	寸法採寸について パターン(製図)について 裁断について 手縫いについて ミシン縫いについて 作品の評価と成果発表	a：班員と協力し、助け合いながら作業を進めることができる。 パターン（製図）、作業服の制作工程について理解している。 b：作業の意図を理解し、取り組むことができる。 c：洋裁に興味を持ち、意欲的に取り組んでいる。	製作品 レポート	レポート・自己評価・相互評価等	学習状況の観察

※令和４年度以降入学生用

パート5	染色技術Ⅰ	型紙捺染について シルクスクリーンについて エコバックの形に縫製し、作品を制作する 作品の評価と成果表現	a: 捺染とシルクスクリーンの制作手順とエコバックの縫製手順を理解し、作品を制作することができている。 捺染とシルクスクリーンの制作手順について理解している。エコバックの縫製の仕方について理解している。 b: 自分でデザインを考え、そのデザインの意図を表現し、発表することができている。 c: 捺染、シルクスクリーンの染色技法に興味を持ち、意欲的に取り組んでいる。	製作品 レポート	レポート・自己評価・相互評価等	学習状況の観察
パート6	CADⅠa	Inventor 使用法の概要について プリントを利用したInventorによる基本形形状課題 プリントを利用したInventorによる基本形状応用課題 アセンブリの基本課題と応用 最終図面作成(パーツファイルから2D図面まで) チャレンジ課題(準１級モデリング)、その他の操作方法。	a: ３D の形状把握と作成に必要なコマンド操作を行うことができ、２Dスケッチおよびフィーチャ作成をする技術及びそれらを組み立てるアセンブリデータ作成の技術を身につけている。 複数のパーツファイル作成演習より、各種描画コマンドの使用法、幾何形状および寸法に関する拘束について指示された通りに操作しながら理解することができる。 b: 理解したパーツファイル作成方法を利用し、三面図を見ていかにして正確な立体形状ができるか手順を考え、判断しながら、課題作成に取り組んでいる。 c: 意欲的に Inventor ソフトの応用性を理解し、３Dモデリング作成のプレゼン技術に関心を持ち、活用していく態度が深まっている。	製作品 レポート	レポート・自己評価・相互評価等	学習状況の観察
パート7	CGⅠ	Photoshopの基本操作について Photoshopの基本操作を組み合わせ作品を作る illustrator の基本操作について illustrator の基本操作を組み合わせて作品を作る 作品の評価と成果表現	a: Photoshop、illustratorの基本的な操作を理解し、作品を制作することができている。 Photoshop、illustrator の基本的な操作方法について理解している。 b: 自分で考えたデザインをPhotoshop、illustrator での適切な操作を判断し、作品を作ることができる。 c: Photoshop、illustratorの操作に興味を持ち、意欲的に取り組んでいる。	製作品 レポート	レポート・自己評価・相互評価等	学習状況の観察

※令和４年度以降入学生用

パート8	ICT Ⅰ	文書作成ソフトを利用し必要とする書類等を作成できる。 表計算ソフトを活用し、適切にデータ処理を行うことができる。 プレゼンテーションソフトの使い方を理解する プレゼンの相互評価	a: 各種ソフトウェアを効率的に活用することができる。 発表する際、どのような資料があれば他者に伝えたいことが伝わるかについて理解する。 b: 与えられた課題に基づき作成したプレゼン資料で発表を行うことで、相互評価を行うことができる。 c: ICT を利用した文書・表計算・プレゼン用資料の作成興味を持ち、意欲的に取り組んでいる。	製作品 レポート	レポート・自己評価・相互評価等	学習状況の観察

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度